

広報

かみごおり

さわやかに歴史と未来の出逢うまち

2月号

1995. No.310
(平成7年2月15日発行)

発行・編集／上郡町役場・広報委員会 ☎2-1111



今年も元気に遊んでね…!

鞍居幼稚園でトンド祭り

家族の健康などを願って行われる冬の風物詩…トンド祭り。ここ鞍居幼稚園でも1月18日(休)、園児たちのミニトンド祭りが行われました。

園児たちは、いきおいよく燃え上がるトンドを囲み、「パン」と竹が破裂するたびにおおはしゃぎ。

その後、トンドの火でおもちを焼き、きなこやさとう醤油をつけて、「わたしふたつめ、ぼくみつつめ」とおいしそうに食べました。

今年も風邪をひかないで、元気に遊んでくださいね。

★主な内容

- ・かみごおり熱と光の祭典を開催 …… 2～3
- ・学校週5日制が4月1日から毎月2回 …… 4～5
- ・上郡ピュアランド山の里予約受付中 …… 6
- ・きれいな水で快適な毎日を …… 7
- ・まちの話題 …… 8～12
- ・お知らせ …… 14～17
- ・歴史散歩 …… 18

★人口のうごき(1月末現在、()内は前月比)

- ・人口 19,411人(+1)
男9,299人 女10,112人
- ・世帯数 5,833世帯(+3)

学校週5日制が4月1日から毎月2回に!!

「育てたい 豊かな心をもつ 子どもたち」



月一回の学校週5日制が、平成七年四月一日より、「第四土曜日」を加え、毎月二回を休業日とする「学校週5日制」が実施されることになりました。

学校週5日制は、学校、家庭、そして地域社会の緊密な関係のもとで、心豊かな子どもたちの育成を図る生涯学習社会への移行を目的としたものです。

みなさんと再度考えていただくためにも、学校週5日制の目的やこれまでの取り組み、アンケート結果などを報告します。

学校週5日制のねらい

子どもたちにとって

①背景

近年、私たちの社会は経済的にも豊かになり、人々は心の豊かさや生きがいを求めるようになってきました。

また、家庭や地域社会での生活経験の大切さが見直されなければならぬ時代となり、学校だけの学習だけでなく、家庭・地域での生活体験・社会体験・自然体験を拡大したり、深める

ことが大切になってきました。

②自ら学ぶ意欲と主体的な行動

これまでの教育は、知識や技能を共通的に身につけることを重視してきました。これからは、自ら考え主体的に判断し行動できる資質や能力が大切になります。自ら進んで学ぶ態度を身につけることにより、生涯学び続けることができるのです。学校週5日制は、子どもに自由な時間を確保して、生活にゆとりをもたせ、主体的に行動する機会を拡大することです。

保護者にとって

①教育観の転換

学力を単なる知識や技能の量でなく、その後の学習や生活に生きて、働く資質や能力と関連づけて考える必要があります。自ら学ぶ意識と、主体的に考え判断し行動できる能力の育成をしなければなりません。

②子どもにゆとりと生きがい

子どもが主体的に使うことができる時間を確保し、ゆとりのある生活のなかで自分のよさを発揮し、豊かな自己実現を図るようにする必要があります。ゆとりと生きがいのある自分自身の生活を実現させてやることを求められています。

③生きて働く力

社会の変化のなかで、生きて働く力を、これからは大いに身につけさせていかななくてはなりません。こういう点から学校の中では、教育観の変革に取り組み、授業の組み立てを考えていくと同時に、子どもは、家庭・地域・学校という中で生活して



◆今後の取り組み◆

●親が責任をもって!

保護者(家庭)のかかわる時間が増えた分、子どもの育成等、責任が増します。

留守家庭への対応や保護者の職業状況など、各家庭状況は様々ですが、第一に保護者の教育観の意識転換や平素の対話が、ますます大切になってきます。

●学校カリキュラムの見直し

現行より授業時間数が不足するため、指導内容や方法の工夫改善と学校行事の精選が必要になってきます。

また、子どもにとっては、学校生活での「ゆとり」がなくなる恐れがありますが、子どもの進んで学ぼうとする意欲と、自分で考えて行動できる力や態度を育てることを重視して、これまでの教育水準の確保はもとより、学習指導のより一層の充実が求められます。

●きつくやさしいおっちゃん、おばちゃんであって!

子どもたちの地域での生活時間が増えるため、家庭外での見守りや助言など、地域の大人としての行動が重要になります。

また、子どもたちの地域生活の体験を大切にするためにも、行事の増加や既存行事の精選、質の向上、施設の充実など地域の応援、協力が求められます。

特に、各地域性を活かすことを中心に考え、学校、保護者(PTA)と緊密に連携をとることが大切です。

「居がいのある家庭」、「行きがいのある学校」、そして「住みがいのある地域」この三者が連携して教育にあたっていく、これが学校週五日制の基本的な考え方です。

みなさんの力で二十一世紀を生きる子どもたちのために、学校週五日制を力強く推進して行きましょう。

学校週五日制の実施に伴い、学校や家庭、地域では、さまざまな取り組みが行われてきました。老人会との交流会や地域でのゴミひろいなどのボランティア活動、自然観察、キャンプなどの野外体験、カヌーなどのスポーツ体験など、子どもたちが自主的に参加できる行事が行われました。

これは、学校の教育だけでなく、

各取り組みで地域の受け皿が拡大

いるのですから、家庭生活においても、生きる力の基礎となるようなものを与えてもらわなければいけません。でないと、子どもたちに真に生きて働く力は形成されないでしょう。



さつまいもの収穫を体験

く、生活体験を通して、主体的に行動する力を育て、ゆとりの中で知恵を蓄積していき、バランスのとれた人間形成を目指したものであり、子どもや保護者にとっても、初めての体験に感動をし、社会のルールを学び、そして、親子との対話・ふれあいの時間が増えるなど、大変好評でした。

●アンケート調査結果(町内小・中学生対象)

1. 学校の土曜日が月に一回休みになったことは、あなたにとって良かったですか。

①とても良かった	73.1%
②まあ良かった	17.7%
③どちらでもない	5.7%
④あまり良くなかった	2.1%
⑤まったく良くなかった	1.4%

2. 学校の土曜日が月に一回休みになったことで、これまでと比べてどんな違いがありましたか。

①ほとんど変わらない	4.0%
②塾やおけいごとの時間が増えた	2.7%
③友達と遊ぶ時間が増えた	19.5%
④家族と話す時間が増えた	11.4%
⑤勉強の時間が増えた	4.7%
⑥ゆっくりする時間が増えた	28.2%
⑦趣味や好きなことに使える時間が増えた	23.3%
⑧地域の活動などに参加する時間が増えた	0.3%
⑨動物園や博物館などに行く時間が増えた	1.0%
⑩その他	4.9%

3. あなたは、月一回の休みの土曜日を今後どのようなことに使いたいと思っていますか。

①寝たい	12.3%
②のんびりしたい	23.1%
③近所で友達と遊びたい	14.5%
④旅行に行きたい	13.3%
⑤一人で何もしないでいたい	1.8%
⑥本を読みたい	4.9%
⑦マンガを読みたい	8.6%
⑧動物園、水族館などに行きたい	2.0%
⑨クラブ活動をした	2.0%
⑩学校で遊びたい	0.5%
⑪勉強をした	2.0%
⑫家族と過ごしたい	7.7%
⑬公民館、児童館などに行きたい	0.1%
⑭図書館、博物館、美術館などに行きたい	1.2%
⑮地域の子ども会、スポーツ少年団、ボーイスカウト等の団体などで活動	1.1%
⑯その他	4.9%